

授業科目名	日本国憲法(200022)		
時間割名	日本国憲法(54105)		
時間割担当	小林直樹		
実施期	後期	単位数	2 必修
曜日・時限	金・4		

授業の目標・概要

この授業では、日本の国の仕組みや人権保障について定めた「日本国憲法」の全体像を概観する。憲法の内容は、大きく国会、内閣、裁判所、地方自治の組織や仕組みに関する「統治機構」の部分と、われわれ日本国民が憲法の下でどのような権利を持っているかという「基本的人権の保障」に関する部分に分かれている。ここでは、それぞれがどのような内容かをみると同時に、いくつかの具体的な事例（裁判例）を用いて、憲法が実際にどのような形でわれわれの生活と関わっており、そこにどんな問題が生じているのかという現状を学ぶ。

学習の到達目標

法的なものの考え方を学ぶ。日本の国の全体的な基本構造を学ぶ。自分を取り巻く社会に対して関心を持ち、広い視野で社会を見る目を養う。文章を読み、それについて考え書く力を身につける。

授業方法・形式

「講義ノート」に出された問題を、テキストをみながら、まず考えてもらう。講義は、この問題を説明する形で行う。

授業計画

授業計画(1)

- 第1回 「講義ガイダンス」。この授業の進め方や方針について説明したのち、法とは何か、また憲法とそのほかの法律とはどう違うのか、ということについて入門的な説明をする。
- 第2回 「憲法とは何か」。憲法は国の基本法と言われるが、それがどういう意味であり、またどのような歴史的背景のもと、このような考え方が出てきたのかを学ぶ。
- 第3回 「日本国憲法の仕組み：日本国憲法と明治憲法」。日本国憲法の仕組みと特徴を、その前の明治憲法と比較しながらみていく。
- 第4回 「国民主権と象徴天皇」。前回の授業を踏まえ、明治憲法との大きな相違点・主権者について説明する。また、天皇が象徴であるということの意味を考察する。
- 第5回 「代表民主制：国会の組織と権限」。国民の声を反映する国会の組織と仕組みについて概観する。
- 第6回 「代表民主制：内閣の組織と権限」。内閣の組織と権限、内閣総理大臣の選出と権限を学ぶ。
- 第7回 「議院内閣制」。5、6回目の授業のまとめとして、国会と内閣がどのような関係にあるのかを学ぶ。
- 第8回 「裁判所の組織と構造」。裁判所とはどのような組織と構造を有し、また国会や内閣と異なるどのような性質を持つのかについて学ぶ。
- 第9回 「基本的人権とは何か」。憲法による保障されている人権の性質や特徴について学ぶ。
- 第10回 「信教の自由と政教分離」。宗教に関係する人権保障について学ぶとともに、国家と宗教は分離しなければならないという制度についても学ぶ。具体的な判例（裁判例）をみる。
- 第11回 「表現の自由」。精神的自由の中核にある表現の自由について学ぶ。ここでは、判例を中心に、表現の自由にはどのようなものがあるのかをみていく。
- 第12回 「教育に関する権利」。教育に関わる人権をみる。教育を受ける権利だけではなく、教師の教育の自由、国家の教育権限など、全体的な仕組みの中で考えていく。
- 第13回 「刑事手続上の人権」。刑事手続における人権保障の規定を概観する。ここでは、憲法の人権とともに、警察や検察の刑事手続（刑事訴訟法分野）の簡単な流れも学ぶ。

成績評価の基準

授業計画(2)

- 第14回 「生存権」。生存権は、社会保障制度の原点にある規定である。ここでは、生存権を学びつつ、社会保障制度についても簡単な全体像をみる。
- 第15回 「基本的人権の射程：外国人の人権保障」。日本国憲法の人権は、日本にいる外国人にも及ぶのかという問題を、具体的な判例を用いて考える。

成績評価の基準

期末試験：100点 この試験は、毎回の課題の中から出題される。評価の要点は、講義をきちんと受け、自分で考えたかにある。なお、この期末試験の補助点として、レポートを課す（提出したい者のみ）。これについては、初回講義の際、説明する。

準備学習・復習及び授

予習は、該当する教科書の部分に、「何が書かれているか」程度のことを見ておいてくれたらよい。むしろ復習に力を入れて欲しい。毎回の授業で出される課題を、必ず、自力でしっかり考えること。

履修上のアドバイス

第1回目に講義用プリントの入手方法および講義の進め方について説明するので、受講生は必ず出席すること。

講義中、質疑応答を行うのでうたた寝しないようにすること。

私語に対しては厳しく対応する(1度注意したにもかかわらず、何度も注意を受ける場合は、講義の静謐な環境を維持するためにも退室を命ずる)。

このほか、教科書と小型の六法を必ず持参してください。また、憲法に関連する時事問題について質問をすることがあるので、新聞などの日々のニュースに接するようつとめてほしい。

教材・教科書

テキスト：長尾一紘著『はじめて学ぶやさしい憲法』（実務教育出版、1997年）、右崎正博ほか著『事例で学ぶ憲法』（法学書院、2009年）。最新の小型の六法。

参考書

参考書：「講義ノート」、「日本国憲法条文」（初回講義の際、指示する）。

ほか、適宜指示する。